
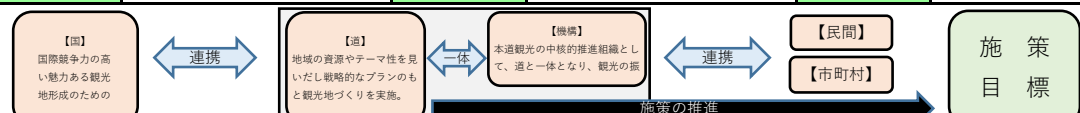


<b>令和3年度 基本評価調書①</b>		所管部局	経済部	所管課	観光振興課	
施策名	滞在交流型観光地づくりの推進			施策コード	05041	
政策体系(中項目)	多彩な地域資源を活かした世界が憧れる観光立国北海道の更なる推進			政策体系コード	2(6)A	
知事公約	C0072 C0120 C0121 C0122 C0124 C0125 C0126 C0127 C0128 C0130 C0131 C0146	総合戦略	A3311 A3312 A3313 A3314 A3321 A3325 A3331	国土強靱化	B1731 B1732	事務事業数 20
SDGs				総合判定	やや遅れている	

**【1 Plan】**

施策目標	地域の多様な関係者の参画による観光客の増加を観光消費拡大につなげ、その消費を地域で循環させ、更なる取組へとつなげ、魅力ある「観光地づくり」を進めることが重要。この取組により、地域の「稼ぐ観光」を実現するとともに、観光施策による効果を地域経済の活性化に繋げていく。					
現状と課題	本道の観光産業のGDPは、金融・保険業や農業をしのぐ規模となり、経済波及効果は、観光関連の事業者だけではなく、幅広い産業に及び裾野が広いことから、道内経済活性化のためには、「観光で稼ぐ」という意識を浸透させ、地域の多様な関係者の参画を促進していく必要がある。					
主な取組	地域の観光協会等が実施するワーケーションなど新たな観光商品づくりの推進、AT（アドベンチャートラベル）の推進に向けたATガイドの育成やAT商品の造成、商談会の開催など多様な取組の推進等					
予算額(千円)	R3	895,733	R2	999,890	R1	827,060
施策のイメージ						

**＜成果指標の達成状況＞ ⇒ 3つ以外の指標は、補助指標調書に記載**

指標名①	増加	円	H29年度	H30年度	R元年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
観光消費額（道内客1人当たり）	目標値		13,781	13,854	13,927	15,000	96.4%	B
	実績値		-	-	13,432	-		
設定理由	旅行目的や旅行形態の多様化・個性化に対応した質の高い観光地づくりの状況を測る指標として設定。							
分析（主な取組と成果）								
魅力ある観光地づくりなど消費額増加のための取組の成果が現れていると考えられる。								

指標名②	増加	円	H29年度	H30年度	R元年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
観光消費額（道外客1人当たり）	目標値		73,804	74,536	75,268	79,000	94.0%	B
	実績値		-	-	70,773	-		
設定理由	旅行目的や旅行形態の多様化・個性化に対応した質の高い観光地づくりの状況を測る指標として設定。							
分析（主な取組と成果）								
魅力ある観光地づくりなど消費額増加のための取組の成果が現れていると考えられる。								

指標名③	増加	円	H29年度	H30年度	R元年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
観光消費額（外国人1人当たり）	目標値		122,753	148,502	174,251	209,000	79.6%	D
	実績値		-	-	138,778	-		
設定理由	旅行目的や旅行形態の多様化・個性化に対応した質の高い観光地づくりの状況を測る指標として設定。							
分析（主な取組と成果）								
外国人観光客の受入体制整備・コンテンツ開発等を推進しているが、中国人観光客のいわゆる「爆買い」などが落ち着いたことによる買い物費の減少などにより、指標が低調となった。								

令和3年度 基本評価調書②	施策名	滞在交流型観光地づくりの推進	施策コード	05041
---------------	-----	----------------	-------	-------

## 【2 Do&Check】

成果指標	指標名	前々年度	前年度	評価年度	評価年度目標値	指標判定
成果指標	観光消費額（道内容1人当たり）	-	-	13,432	13,927	B
	観光消費額（道外客1人当たり）	-	-	70,773	75,268	B
	観光消費額（外国人1人当たり）	-	-	138,778	174,251	D
目標（指標）の達成状況	外国人観光客の消費額単価については、中国人観光客の「爆買い」が落ち着いたことから前回調査時（H27）よりも減少したと考えられ、観光消費額単価については、目標達成に向けた更なる取組が必要				指標総合判定	C
連携状況	本道観光の中核的組織である（公社）北海道観光振興機構や地域における観光振興の主体である市町村やDMO、観光協会等と常に連携し、魅力ある観光地づくりを推進している。				連携判定	○
緊急性優先性	新型コロナウイルス感染症の影響の長期化により本道の観光関連産業は危機的な状況にあり、道では、国の観光施策の運用等に関して、感染状況に応じて、きめ細やかに要望を実施しており、国の施策も活用した効果的な観光地づくりの推進に努めている。				緊急性優先性判定	○
総合判定の根拠	観光消費額単価の向上に向けては、観光客のモノ消費からコト消費へのニーズ変化を捉えた観光コンテンツの磨き上げなど、指標の達成に向けた更なる取組が必要				総合判定（一次評価）	やや遅れている

翌年度に向けた対応方針	対応方針番号	内容
	①	広大で密になりにくい本道の優位性や、自然や食・文化など本道の魅力を活かした「安全・安心」で選ばれる観光地づくりを推進。
	②	本道の観光産業を支える人材の育成確保に努める。
	③	

## ＜二次政策評価＞

前年度二次評価意見	道の補助金等が団体（観光振興機構）の当期支出の2分の1を下回るよう同補助金以外の財源の確保手段を模索するなど、収支改善策を検討し団体の自立化の推進に努めること	対応状況（R3.3時点）	新たな会員の獲得や収益事業の拡大など、組織体制強化に必要な自主財源の確保に向けた各取組を積極的に後押ししていく。
R3年度二次政策評価	滞在交流型観光地づくりの推進のため、地域の多様な関係者の参画による観光客の増加を観光消費拡大につなげ、その消費を地域で循環させ、更なる取組へとつなげ、魅力ある「観光地づくり」を進めることは重要であり、地域の「稼ぐ観光」を実現するとともに、観光施策による効果を地域経済の活性化に繋げる取組の一層の推進を検討すること。		

## 【3 Action】

二次政策評価への対応	滞在交流型観光地づくりの推進に向けて、アドベンチャートラベル(AT)に代表される長期滞在型、富裕層向けの旅行商品開発を目指し、ATの推進に係る取組や観光人材の確保・育成のほか、AI(チャットボット)を活用した情報発信や、安全・安心な観光地づくりに取り組むなど北海道観光の更なる高付加価値化に努める。
R4施策の方向性	アドベンチャートラベル(AT)に代表される長期滞在型、富裕層向けの旅行商品開発を目指し、ATの推進に係る取組や観光人材の確保・育成のほか、AI(チャットボット)を活用した情報発信や、安全・安心な観光地づくりに取り組むなど北海道観光の更なる高付加価値化に努める。

<b>令和3年度 補助指標調書①</b>	施策名	滞在交流型観光地づくりの推進	施策コード	05041
----------------------	-----	----------------	-------	-------

**【成果指標の達成状況】**

補助指標名①	増加	万人泊	H29年度	H30年度	R元年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
宿泊延べ数		目標値	4,064	4,276	4,488	4,700以上	80.7%	C
		実績値	3,723	3,781	3,620	—		
設定理由	旅行目的や旅行形態の多様化・個性化に対応した質の高い観光地づくりの状況を測る指標として設定。							
分析（主な取組と成果）								
日韓の国際情勢の変化の影響による訪日韓国人観光客の減少や新型コロナウイルス感染症の世界的流行に伴う旅行需要の減少から指標が低調となった。								

補助指標名②			R元年度	R2年度	R3年度	最終目標	達成率	指標判定
		目標値						
		実績値						
設定理由								
分析（主な取組と成果）								

補助指標名③			R元年度	R2年度	R3年度	最終目標	達成率	指標判定
		目標値						
		実績値						
設定理由								
分析（主な取組と成果）								

補助指標名④			R元年度	R2年度	R3年度	最終目標	達成率	指標判定
		目標値						
		実績値						
設定理由								
分析（主な取組と成果）								

補助指標名⑤			R元年度	R2年度	R3年度	最終目標	達成率	指標判定
		目標値						
		実績値						
設定理由								
分析（主な取組と成果）								

